



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第9号 (H23.6.30)

宮崎県都城市妻ヶ丘町27-15

TEL: 0986-23-0223 FAX: 0986-24-5884

校長 前田 哲司

しつ じつ ごう けん 質実剛健

「実力と気品をそなえ、たくましくあれ！」



第1回附属中 オープンスクール開催！

6月25日に第1回附属中オープンスクール（学校説明会）を開催しました。300人を超えるこどもや保護者が来校していただき、大盛況で終わることができました。前田哲司校長のあいさつに始まり、玉利教頭、日高教務主任より概要説明がありました。生徒発表を、2年生の藤岡ゆいさん、1年生の矢野優花さんが行いました。両生徒の堂々とした発表には、参観の方から、「すばらしい」「是非、入学させたい」というお褒めの言葉をいただきました。

また、今回の学校説明会は初めての試みで、米澤先生とハーマイオニー（ALT）によるTTの授業を行いました。1年のC-TIMEの授業を参観していただきました。授業内容は「自分のモンスターを紹介するスピーチを作る」ことでした。

本校の独自教科であるC-TIMEは、1週間に1回、普通の授業とは別に設定されています。小学生が行っている外国語活動の発展版です。中高の6年間で最終的にはディスカッション（討論）ができるようになることを目標としています。次に校内見学です。教室・技術室・保健室・化学室・図書室と附属中ならではの施設を見学していただきました。最後に、初めての試み「ポスターセッション」です。各出身校別にグループを組み、後輩に先輩が「附属中の自慢できるところをPRする」活動を行いました。各グループとも日頃の練習の成果もあって、すばらしい発表ができたのではないのでしょうか。全体を総して、附属中の生徒の皆さん、本当にご苦労様でした。すばらしい学校説明会を開催することができました。大好評でした。さて、何人、君たちの後輩が入学してくるのか、とても楽しみです。



自然科学探究：出前授業

6月23日(木)に南九州大学環境園芸学部の教授である「山口雅篤先生」に授業をしていただきました。テーマは「植物の色を科学する」でした。昨年度に引き続き「花の色」に焦点化した授業を実践していただきました。昨年度は青色のカーネーションでしたが、今回は「青いバラ」です。この青いバラ、保護者の皆様ご存じでしょうか。サントリーが「青いバラを作りたい」研究者の熱い思いで実現したものです。1本数千円する高価な物をわざわざこの出前授業のために、サントリー研究所から山口先生を介して贈っていただいたものです。なんと子どもたちは、恵まれているのでしょうか。今回、本当に贅沢な実験となりました。下記に詳しく青いバラについて載せてみました。



<生徒の感想>

~この実験もまったく知らない事で、エタノールをかけると色が出てくるのはなぜかと思いました。エタノールや塩酸などの水溶液は、植物の色も出してしまふのはすごいなと思いました。~(女子生徒)

~色のしくみや光との関係について学びました。私は、普段目にしてはいる花や果物、野菜に色がついていることを不思議に思ったことがなかったので、先生に質問されて「えっ、当たり前だけどどうしてだろう」と初めて考えました。色について聞いてみると、難しい言葉がでてきたり、あれとこれを合わせてとか...と訳がわからなかったところもありましたが、これが分かるようになったら、自分が色を作ることができたらとてもいいなと思いました。~(女子生徒)

~研究することの楽しさです。簡単な実験でしたが、私にとっては初めての経験でした。研究者の中では当たり前のことかも知れませんが、とても興味が湧きました。~(男子生徒)

~私は、いつも植物の見た目などに気を取られて、どうして花びらやがくに色がついているのかな?などについて考えないといけななと思いました。~(女子生徒)

~バラが青色に近い色が出たのは、パンジーの遺伝子を使うというところにびっくりしました。それは、バラの遺伝子にパンジーの遺伝子をつなげる発想がすごいと思いました。僕には、そんな発想は思いうかばないと思います。~(男子生徒)

<青いバラについて>

バラは古くから世界で最も愛されてきた植物です。現在栽培されているバラのほとんどは、世界各地の野生種のバラ8種程度を人為的に掛け合わせるにより生み出されました。四季咲きのバラ、黄色やオレンジのバラも、長年の品種改良の結果、誕生したものです。

青いバラを作ろうという努力もされてきましたが、バラには多くの青い花に含まれる青色色素(デルフィニジン)を作る能力がないため、実現には至りませんでした。このため、Blue roseは、「不可能」の意味も持つほどです。「幸せを象徴する

青い花を作って世の中を明るくしたい」、「バイオテクノロジーを用いればバラで青色色素を合成させることができ、青いバラができるはず」、「サントリーのDNAであるやってみなはれにふさわしい」。これが夢への挑戦の始まりでした。以来、14年の年月を経て、2004年によろやく開発の成功を発表し、「青色色素が花びらに存在する、世界初の青いバラの誕生」と大きな反響を呼びました。その後、2008年に生産販売に必要な認可を取得、2009年から「サントリーブルーローズ アプローチ」(花言葉「夢かなう」)として好評発売中です。



世の中にない
青いバラを作りたい。
研究者の熱い思いが
この夢を実現しました。



